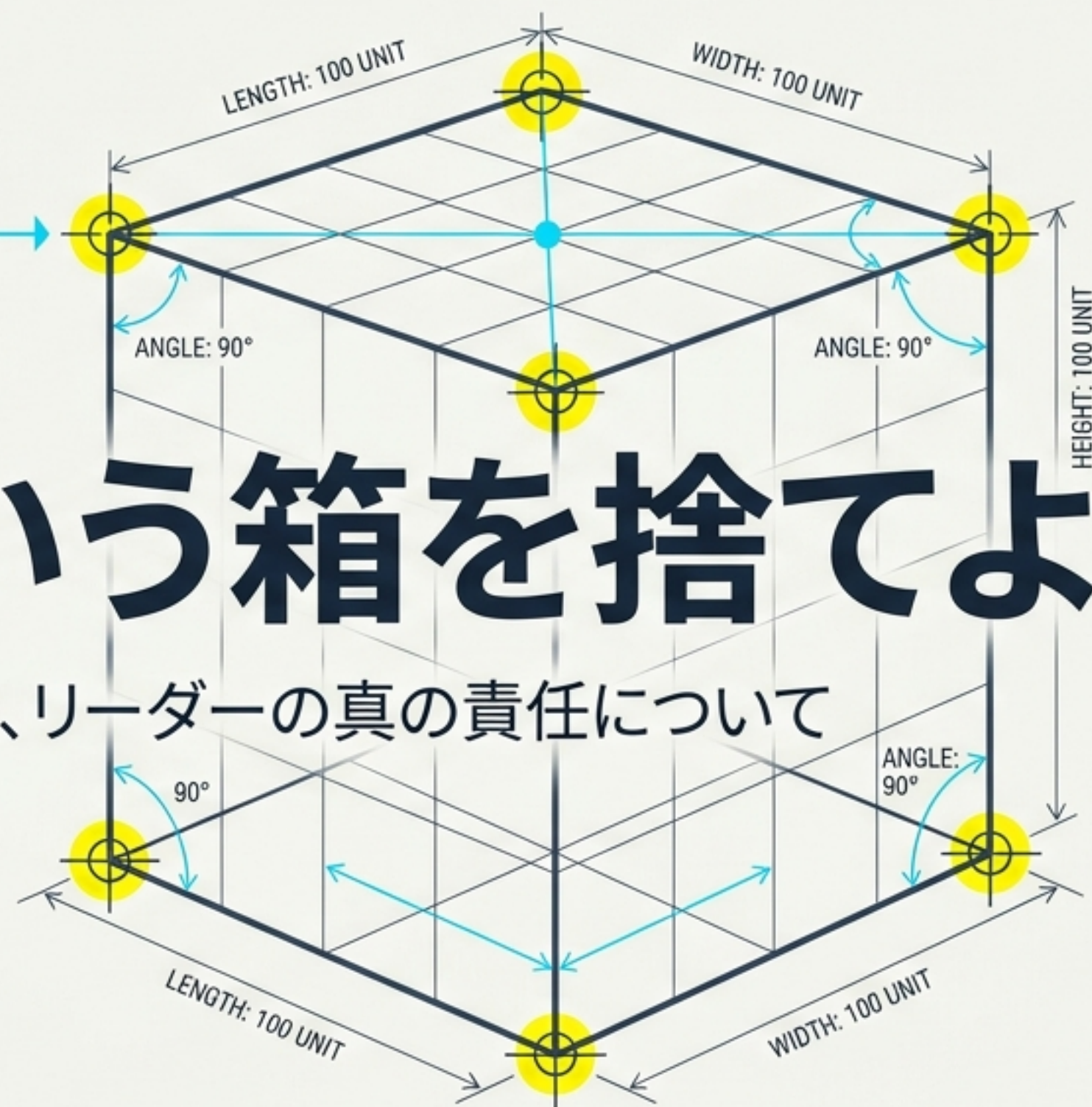


『クオリティ』という箱を捨てよ

思考停止を生む無意識の抽象化と、リーダーの真の責任について



現場で響き渡る『真っ当な』言葉たち



もっとクオリティを
を上げて

一球一球の
クオリティを大切に

もっと丁寧に



具体的に、
何を変えれば
いいんですか？

指導者側は仕事を果たした気になっているが、
現場の行動は1ミリも変化していない。

**解像度なき抽象語は、
指導ではなく責任逃れである。**

万能な言葉がもたらす『思考停止』

何も説明していないのに、
説明した気になってしまう
最悪の結末。

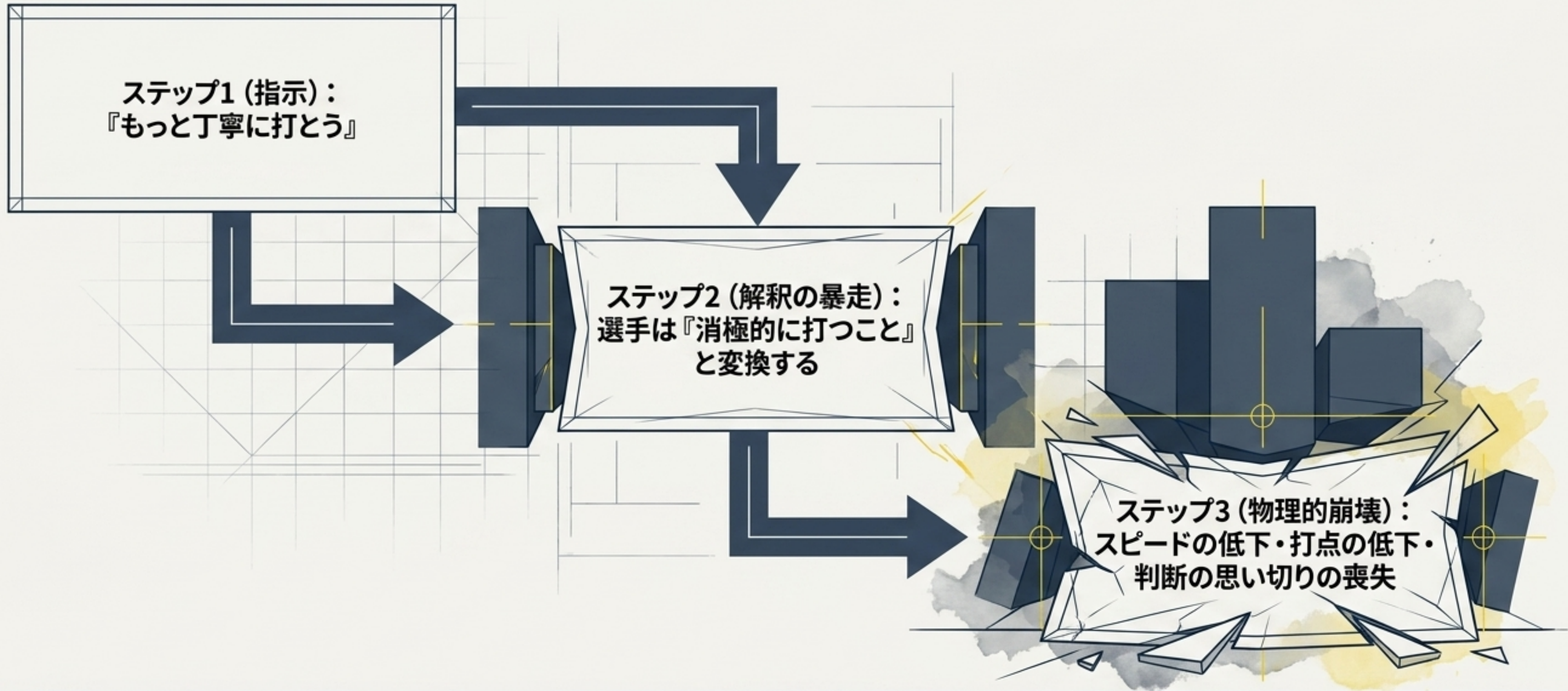
クリアが浅い

レシーブが浮く

フットワークが
遅い

すべて
『クォリティを上げよう』
で片付く魔法の箱

『丁寧に』という指示がパフォーマンスを殺すプロセス



選手を暗闇の中で迷わせ、泥沼に引きずり込んだのは『言葉足らずな指導者』である。

指導者の現在地を知るマトリクス

	三流の指導者	一流の指導者
観察の対象	概念や精神論を語る	物理的動作を観察する 
言葉の解像度	『クォリティ』で大雑把に濁す	徹底的に因果関係を分解する 
責任の所在	失敗は『本人の意識』のせい	失敗は『自身の言語化不足』のせい

現象を『物理動作』へ翻訳する

現象：『飛距離が伸びない』

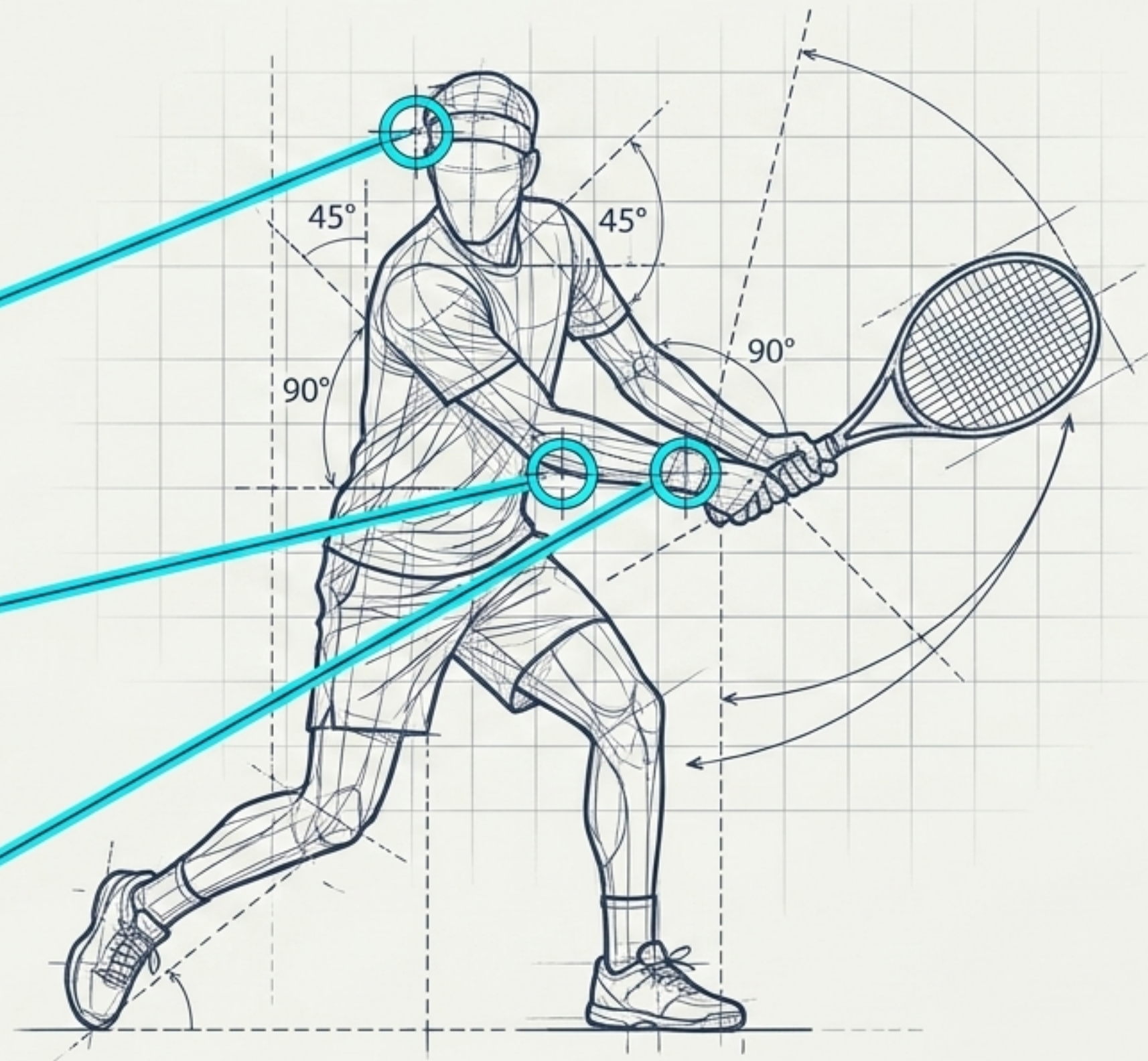
1. 打点が頭の後ろに入りすぎている



2. インパクトの瞬間の前に握り込んでしまっている



3. ラケットヘッドが加速する前に腕の振りを止めている



人間が物理的に変えられるのは、抽象概 ではなく具体的な物理動作だけである。

~~クオリティを
上げる~~

①

打点を10cm前にする

②

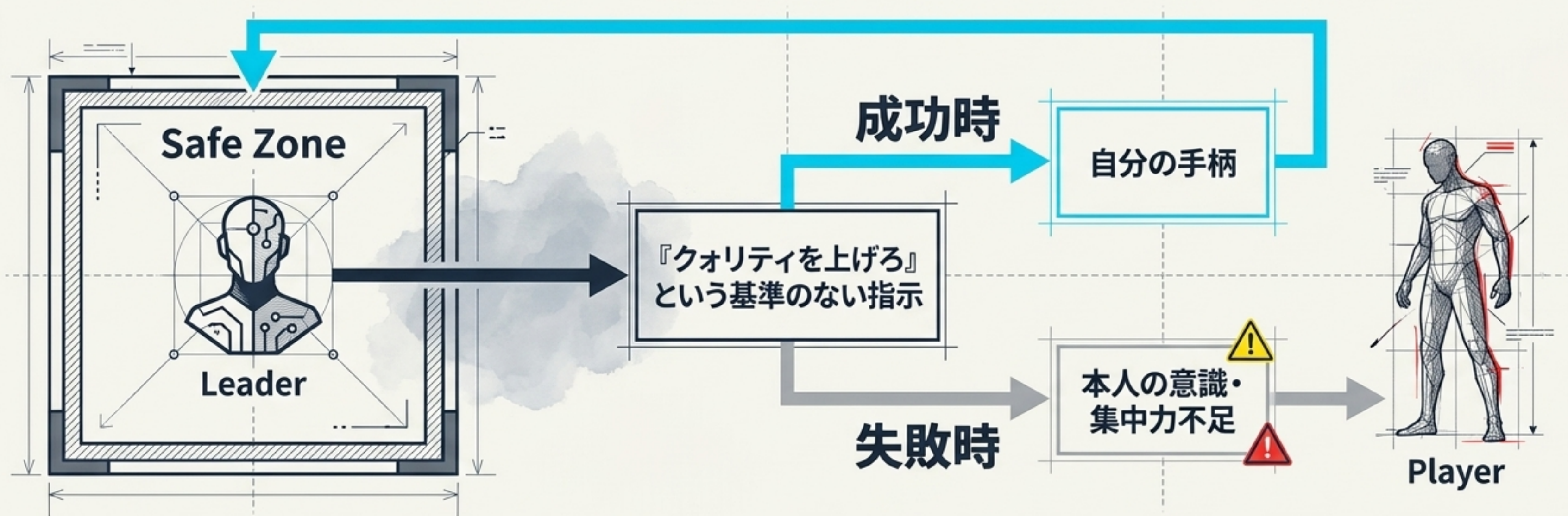
グリップを握り込む
タイミングを半コマ遅らせる

③

一歩目の踏み込み幅を
小さくする

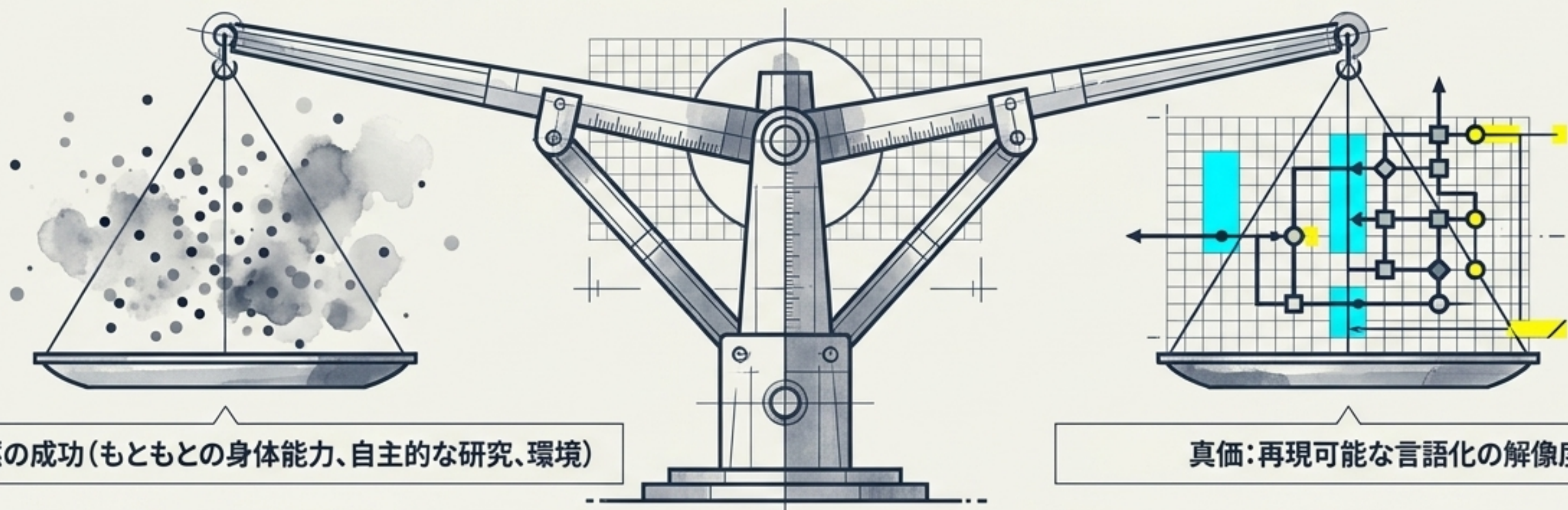
ここまで落とし込んで初めて、
それは指導と呼ぶに値する。

保身と責任転嫁の心理システム



自分が絶対に傷つかないポジションからの
無責任な『丸投げ』。

優秀さの錯覚と真の価値



なぜ上手くなったのか、何を変えたのか、どの順番で言葉を掛けたのかを、再現可能な解像度で説明できるか？

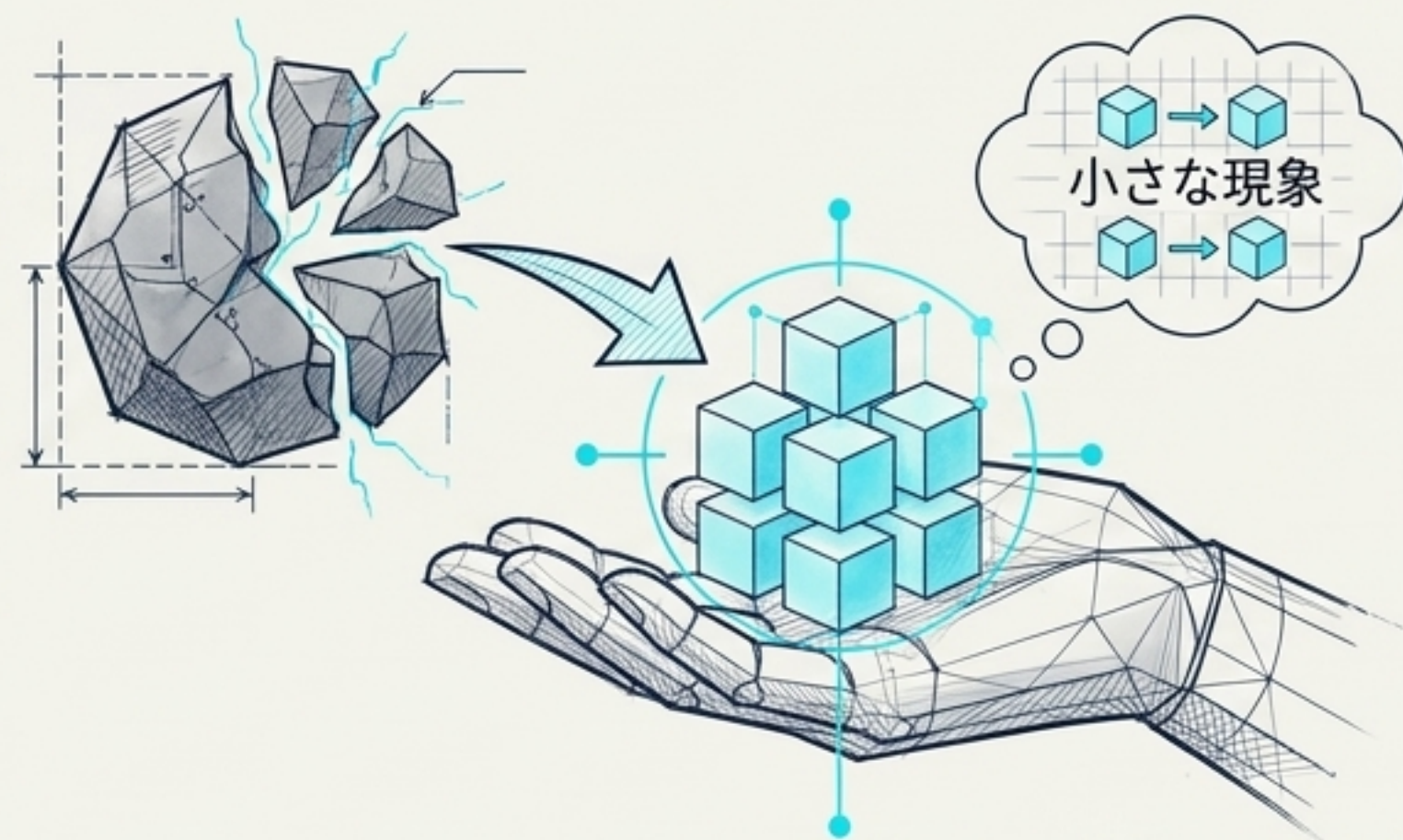
究極の格言：岩を砕いて手渡せ

三流は言葉を大きくする



大きすぎて扱えない、無責任な指示

一流は現象を小さく砕いて渡す



相手が扱えるサイズ、再現可能な変化

Core Insight:
Specif.: 300
Vectors: 1270°

大きな言葉を渡すのは指導ではない。相手が今すぐ扱えるサイズまで現象を切り分け、一步の変化に寄り添うことこそが責任である。

指導の解像度を高める4つのセルフチェック

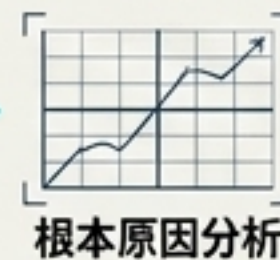
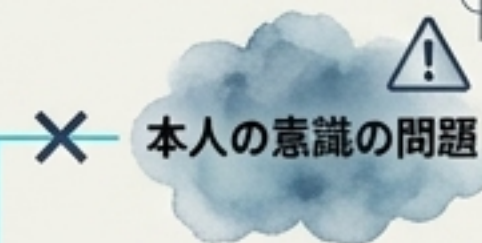
1

具体的提示：
『クォリティ』『丁寧に』
を使った際、
物理的な改善動作を
1つ以上提示できたか？



2

保身の排除：
改善できなかったとき、
『本人の意識の問題』にして
自己保身を図っていない
か？



3

視点の譲渡：
答えの丸投げではなく、
相手が自ら観察できる
『視点』を渡せているか？

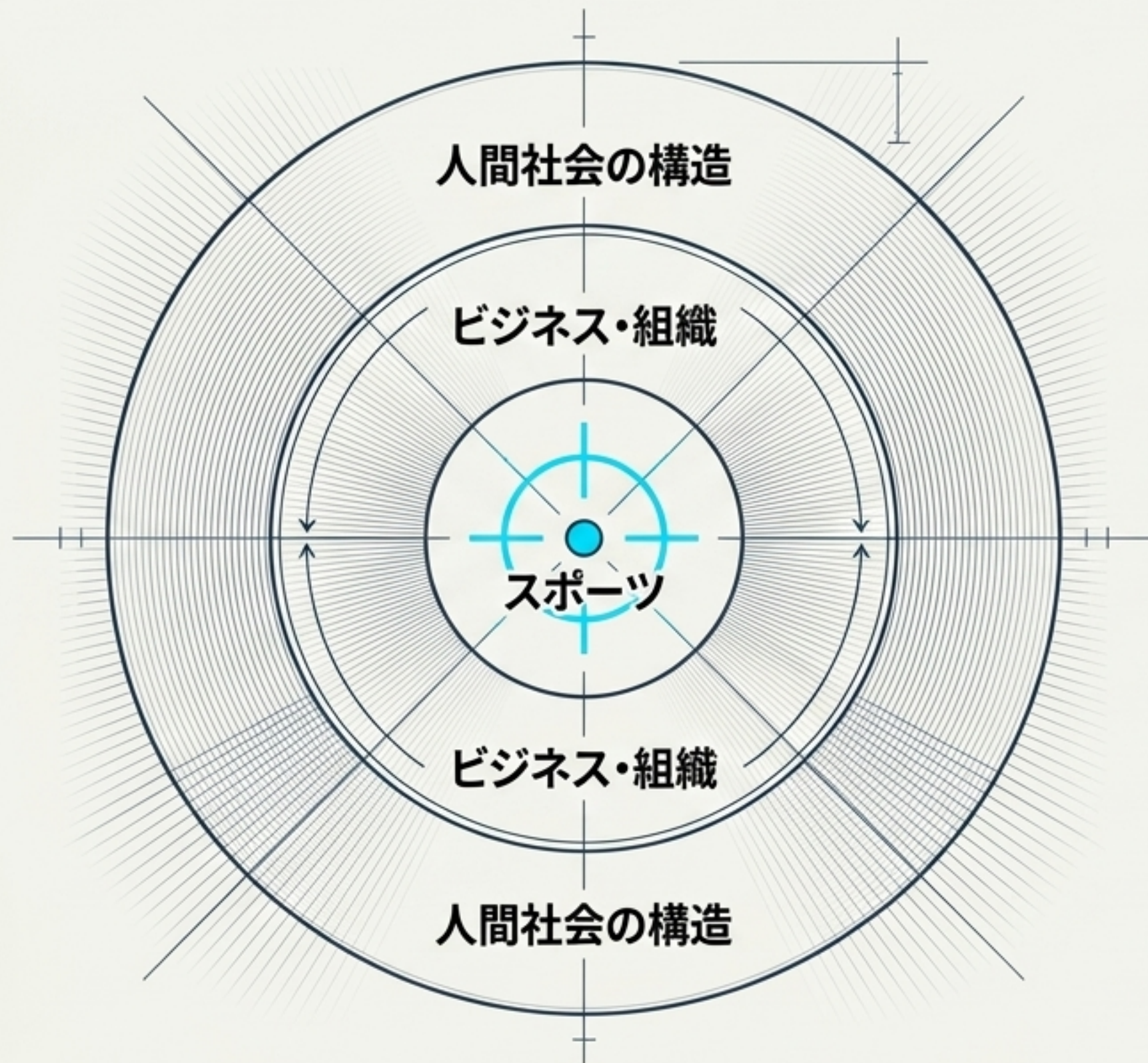


4

実行サイズの分解：
自分が発した言葉は、
相手が『次の瞬間に直ちに
実行できるサイズ』か？



スポーツを越える普遍的構造



無意識の抽象化がいかに思考停止を生み、権力勾配を利用した責任転嫁へと変貌するか。

バドミントンコート上の悲劇は、オフィスにおける『上司と部下』、教室における『教育者と生徒』の間で毎日繰り返されている。
教える側に課された最大の誠実さとは、言語化の解像度である。

相手を変えたいなら、自分の観察眼を疑え。

言葉を発する前に、自身の解像度を問い直し続けよ。